

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：森田彰・山崎賢太郎

Vol. 13 2024. 2. 15

今回の減災ニュースは、2023年11月11日に兵庫県で開催された近畿地方DMATブロック訓練に参加した内容を報告させていただきます。

訓練参加者は、医師：二川 看護師：山崎・森田 ロジ：亀田です。



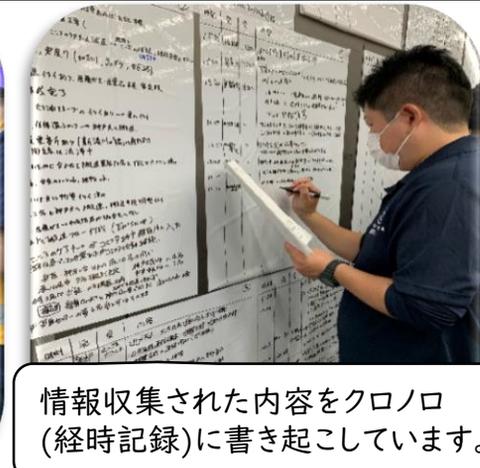
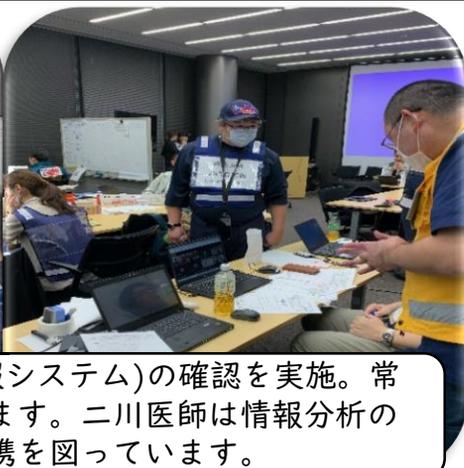
近畿地方ブロック訓練とは？

近年、多く見られる線状降水帯など風水害による災害を想定し、近畿府県からDMATを受入れた訓練を実施することにより、災害時の医療活動における組織体制の機能と実効性に関する検証を行い、防災関係機関と連携・協力のもと迅速な医療救護活動が実施できるよう、訓練を行うことです。（兵庫県庁ホームページ：令和5年度近畿ブロック訓練概要）

今回の訓練は兵庫県南部に大雨特別警報が発出され、川が破堤・氾濫したという設定で、DMAT派遣要請がありました。近大奈良DMATは神戸市役所まで参集後、神戸市活動拠点病院の本部訓練に参加する事となり、二川医師と亀田課長は情報分析班に、山崎看護師と森田看護師は記録・クロノロ班が割り当てられました。始めはどのように動いて良いのかわかりませんでしたでしたが、たくさんの他施設・他病院の方と顔見知りになり、丸一日コミュニケーションをとることで、スムーズに情報共有ができるようになり、お互い情報提供された内容を相談したり、「疲れるので、交代しましょう。」など労いながら災害訓練を実践することができました。



emis(広域災害救急医療情報システム)の確認を実施。常に最新の情報を確認しています。二川医師は情報分析の部門長として、各部門と連携を図っています。



情報収集された内容をクロノロ(経時記録)に書き起こしています。



令和6年1月1日に能登半島地震が発生しました。それにより、甚大な被害を受け、今でも多面的な支援を必要としている方々がいいます。数十年以内に必ず起きるであろうといわれている南海トラフ巨大地震に対して、行政も市民も関心の高さをみせており、いざという時の備えが進められています。これからも当院が災害拠点病院として役割が果たせるように、DMAT隊員だけでなく近大奈良病院で働く皆さんと共に協力して災害に備えていけたらと思います。

ご意見や感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
(患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。)